

「くらしの生存圏科学」

生存圏フォーラムでは、持続的発展が可能な生存圏を構築すべく、情報交換・人的交流・教育・啓発活動の一環として特別講演会を開催しています。

日時：令和元年 11 月 2 日（土） 15:00~17:30

会場：京都大学総合研究 8 号館 3 階 NS ホール

定員 200 名 入場無料・お申し込み不要

●どなたでもご参加いただけます。直接会場にお越し下さい。

プログラム

15:00-15:05 開会の辞

外崎 真理雄（生存圏フォーラム会長）

15:05-15:20

「生存圏科学への招待」

渡辺 隆司（京都大学生存圏研究所・所長）

15:20-16:00

「2011 年から続く福島県での連携支援研究」

上田 義勝（京都大学生存圏研究所・助教）

16:00-16:40

「小さな破壊者：生態系に対する侵略アリの脅威について」

Yang, Chin-Cheng（京都大学生存圏研究所・講師）

16:40-17:20

「土壌の代謝物を理解して強い作物を設計する」

杉山 暁史（京都大学生存圏研究所・准教授）

17:20 閉会の辞

お問い合わせ先

京都大学生存圏研究所生存圏フォーラム事務局

e-mail: forum@rish.kyoto-u.ac.jp

Tel: 0774-38-4594, Fax: 0774-31-8463

HP : <http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/forum/>



「くらしの生存圏科学」 講演概要

15:20-16:00 「2011 年から続く福島県での連携支援研究」

上田 義勝（京都大学生存圏研究所・助教）

東日本大震災と、それに伴う福島原発事故により、福島県下の環境放射能の影響が問題になっています。私たちは現在も福島県において、環境中に含まれる放射性セシウムと、農作物への影響などを調査しており、これまでの研究成果と、今後の課題について紹介したいと思っています。



16:00-16:40 「小さな破壊者：生態系に対する侵略アリの脅威について」

YANG, Chin-Cheng（京都大学生存圏研究所・講師）

2017 年にヒアリが日本にて発見されて以来、この小さな破壊者は世間に注目されている。本講演では、私たちの生態系に対するこの侵略アリの状況と、この脅威への対処についての例を紹介する。また、侵略アリに対する効果的な管理方法についても紹介する。このような生物学的な侵略に対する知識と管理手法について広く一般の皆様と情報を共有することで、生存圏科学の新しい分野としての我々の研究の重要性についてもお知らせしていきたい。



16:40-17:20 「土壌の代謝物を理解して強い作物を設計する」

杉山 暁史（京都大学生存圏研究所・准教授）

環境に負荷をかけず食料を増産することが望まれています。環境の変化や病害虫の被害により作物の収量が低下する問題があります。本講演では、土壌の代謝物の新たな機能を見つけ出し、作物の増収に応用する研究について紹介します。

